



News Letter



VOL.18
2023年10月号



医学部2年生キャリア教育 2022年12月3日(土)

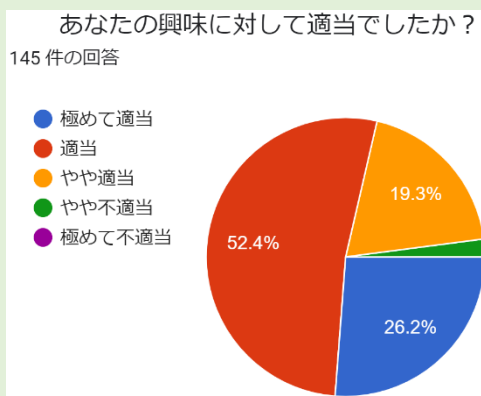
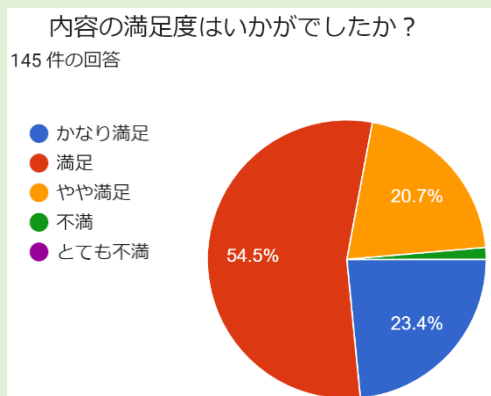
2022年12月3日(土)1限から3限の医学部第2学年「実践医学」の授業で「卒前キャリア教育」を開講しました。毎年、全国の医学部卒前教育で男女共同参画に関する講義・ワークを実践されている、蓮沼直子先生(広島大学医学部附属医学教育センター教授)に講師のご依頼をし、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン形式で行いました。

授業では、北川学長(センター長)に「教育ってどういうこと？ 発展途上国の医療支援」と題した基調講演をしていただいた後、蓮沼先生の司会・進行により、「子供の朝の発熱」・「女性外科医の海外留学」のどちらかのケースについて、グループごとに問題点・その対処等の発表を行いました。発表前に行われたグループ討論では、男女問わず学生たちが活発に意見を出し合い、真剣に取り組む姿が見られました。

若手医師のロールモデル講演では、藤田陽子助教(腎臓・高血圧内科)よりご自身の経験をお話いただき、大変貴重な時間となりました。その後、蓮沼先生にキャリア教育の総括をしていただいて終了となりました。

出席者からのアンケート結果では、内容について「かなり満足・満足」が約78%、興味について「極めて適当・適当」が約79%との回答が得られました。将来起こり得る問題について考え、男子学生・女子学生とも、学生のうちから卒業後のキャリアを考えることの大切さを感じる機会となりました。

～ 受講者アンケート回答より(抜粋) ～



● 医師のキャリアを考えてみてどう感じましたか？ ●

- ・出産というイベントは、男女両方のキャリアに大きく影響すると感じた。
- ・医師としてのキャリアを学生のうちから、目標として立てておくことで、自身のキャリアを構成する周囲の人間関係の大切さ考えることができました。
- ・現状女性に関して厳しい状況であるので、それを支えるような社会作りや、男性の配慮が必要であると思った。
- ・1つのケースに対して、様々な解決方法があることを学べ、今自分が考えているキャリアの方法以外にも色んな選択肢を考えてみようと感じた。
- ・留学の時期や結婚の時期などについてちょうどこの頃考えていたので大変参考になりました。
- ・自分が思っているよりも社会のサポート体制があることに安心した。
- ・家庭と仕事の両立は色々な問題を乗り越えなければならず、想像以上に大変だと思った。自分のやりたいことは何かを明確にし、優先順位を考えることが大事だと感じた。
- ・医師としてキャリアを積むことも大事ではあるがライフとワークのバランスをうまく取って自分のやりたいことを実現していきたいと感じた。

● 今後のキャリア教育に期待することは何ですか ●

- ・再受験生や結婚している男性の学生など、様々な立場から医師になった人の話も聞いてみたいと思った。
- ・留学や研究・臨床のキャリアについて、男性側がどのように家族と協力してそのキャリアを形成していったのかについてももう少し掘り下げてディスカッションしてみたいと思う。
- ・今回のように、男性も妊娠出産や育児との両立などを知って考える機会があると嬉しい。
- ・女性医師の目線だけでなく男性医師の目線からも子育てと家庭の両立についてのお話を聞いてみたいと思った。
- ・どうしてもまだ、子育ては女性優位であるという考え方が根付いている気がします。今日のような妊娠/出産などの講義を男女交えて若い頃から教育することで、「産む」のが女性なだけであって子育てや育休は夫婦のものであるという意識を鍛えることが大事だと思いました。

大学院キャリア教育 2022年12月10日(土)

大学院総合教育科目Ⅲの講義では、鈴木(黒川)真奈絵指導教授(女性医師・研究者支援部会員)が「研究者としての生涯構想」を担当しております。2022年度は12月10日(土)に対面形式で行なわれました。

講義では、医師のキャリア形成のタイムコースとその中の大学院の位置づけについて、医師が研究に携わる利点、どのようにして生涯研究を続けていくか等についてお話があった後、医師歴20～30年で実際に研究を継続しているロールモデルが数例紹介されました。

その後、各大学院生より、1. 大学院卒業後、どんな研究をしたいか、2. 研究のため留学する場合、1)どこの大学・研究機関に留学し、2) どんな研究をしたいか、3. 留学後、生涯に渡り、1) どのようなスタイルで、2) どんな研究をしていきたいか、について、レポートによる報告がされました。大学院生の皆さんは、各自の希望・方向性を元に明確な計画を打ち出しており、聖マリアンナ医科大学大学院から若い研究者が次々と巣立っていくのが非常に楽しみとなっております。

医学部4年生キャリア教育 2022年12月21日(水)

医学部4年生の臨床実習オリエンテーションにおいて、麻酔学 井上荘一郎 主任教授より、「現代の医師のキャリア形成 どのように働き続けていくか」というタイトルで講演が行われました。

始めに、先生ご自身についてご紹介いただいてから、スライドを使い、いくつかのテーマに沿ってお話をされました。医師のキャリア形成についての現状を紹介しながら、問題点やメリット・デメリットについて説明され、また、実際の女性医師が、フルタイムではなくペースダウンして働くパターンを示され、介護・出産等で仕事をペースダウンすることは、男性の問題でもあるとお話しになりました。

最後に、現代の医師のキャリア形成のために求められることとして、

1. 多様な働き方に対応できる職場
2. ロールモデルの発信
3. 臨床指導者の育成
4. 学位の復権
5. 医師も病院も5年10年先を見据えて

を挙げられ、授業を締めくくりました。学生が今後様々な進路を選択していく上で、大変参考となる内容でした。



医学部保護者会における相談会 2023年5月27日(土)

2023年5月27日(土) 医学部保護者会での懇親会の時間帯に、教育棟1階マリオン前で「学生・保護者相談会」のブースを設置しました。

予防医学 高田主任教授(女性医師・研究者支援部会長)・医学教育研究 望月教授が対応し、保護者の方から医学生の進路などについてのご質問にお答えするとともに、保育・介護支援ガイドブックやNews Letterなどの資料を配布して、当センターの活動の紹介をしました。

今後も学生・保護者の皆様からのキャリア相談に対応するため、次回秋の保護者会開催時にも、懇親会の時間帯に相談ブースを設置する予定です。



現在、女性研究者・ライフイベント中の研究者支援として以下の制度の応募を受け付けています。応募資格のある方は是非ご応募ください。

・ダイバーシティ英語論文作成費助成制度(応募締切: 2024年2月29日)

詳細はダイバーシティ・キャリア支援センターHPをご覧ください。

→<http://www.marianna-u.ac.jp/career/support/woman.html>



●ダイバーシティ・キャリア支援センター●

電話044-977-8111(内線5814)、メール(ご相談・ご意見): career@marianna-u.ac.jp

一般事業主行動計画の策定について

この度、2023年4月より5年間の期間を定め、「次世代育成支援対策推進法」および「女性活躍推進法」に基づく行動計画を策定しました。センターでは、行動計画に基づき子育て中や女性の教職員が働きやすい環境整備を目指してまいります。

(行動計画はダイバーシティ・キャリア支援センターホームページからもご覧いただけます。

<http://www.marianna-u.ac.jp/career/>)

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画

教職員が仕事と子育ての両立ができるよう、働きやすい雇用環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定する。

【計画期間】 2023年4月1日～2028年3月31日 (5年間)

【目標1】改正後の出産・育児・介護に関する諸制度の周知および取得しやすい環境の整備

〈対策〉2023年4月～

- ・相談窓口の運営を充実させる
- ・改正後の育児介護に関する諸制度を分かりやすく教職員へ説明及び周知するための説明会等を開催すると共に諸制度の情報を入手しやすいようホームページ等を活用する
- ・事業所内保育園の利用方法を継続的に見直し改善を行う
- ・ベビーシッター補助の活用を促す

【目標2】男性の育児休業取得率20%以上を目標とし、育児参加を促進

〈対策〉2023年4月～

- ・相談窓口の運営を充実させる
- ・男性が利用できる育児に関する制度を周知する
- ・教職員へ男性の育児参画や休業取得の利用促進について、講演会等を開催する
- ・所属長の理解を深める

【目標3】不妊治療と仕事の両立しやすい職場環境への取組み

〈対策〉2023年4月～

- ・不妊治療のための休暇制度を導入する
- ・教職員へ不妊治療と仕事の両立に関する方針を示し、取組等を周知する
- ・教職員へ不妊治療と仕事の両立について、講演会等を開催し不妊治療の正しい知識と職場内の理解を深める

【目標4】年次有給休暇取得率を政府目標の取得率70%以上を維持する

〈対策〉2023年4月～

- ・前月分の取得状況を把握し、取得率を分析する
- ・取得率向上に向け管理職とヒアリングし意識啓発を行う
- ・年5日の時間単位での年次有給休暇制度の導入

【目標5】次世代育成支援対策に関する事項

〈対策〉2023年4月～

- ・若年者を対象とした就業体験の機会を継続して提供する
- ・地域と連携して次世代育成を継続して支援する



女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

女性が活躍できる雇用環境を整備し、さらに管理職として十分に能力を発揮出来るようにするために、以下の様に行動計画を策定する。

【計画期間】 2023年4月1日～2028年3月31日(5年間)

【本学の課題】

- 1) 理事・執行役員相当における女性の比率が低い(2022年5月1日現在、21名中3名)。
- 2) 研究者(特に上位職)における女性の比率が低い(2022年5月1日現在、教授相当11.5%、准教授・講師相当18.2%、助教相当28.2%)。
- 3) 妊娠・出産・育児等に対する施策の中で、特に不妊治療に対する支援体制が確立されていない。

【目標】

- 1) 女性理事・執行役員相当を、現在より1名以上増やす。
- 2) 研究者における女性比率を、教授相当12%、准教授・講師相当23%、助教相当32%以上とする。
- 3) 不妊治療休暇を創設し、取得者2名以上とする。

【取組内容】

- 1) 女性教職員の活躍推進施策
 - i) 全学的な意識改革・価値観の共有を図るため、幹部向けの報告会・講演会を実施する。
 - ii) 女性教職員をキャリアアップ研修等により積極的に育成し、管理職に登用する。
- 2) 女性研究者の活躍推進施策
 - i) 研究および英語論文作成の助成制度による支援を拡充する。
 - ii) ロールモデルとなる優秀な女性研究者を表彰し、学内外に公表する。
 - iii) 女性研究者の裾野を拡大するため、キャリア教育・交流会・保護者相談会等を通して、医学生・研修医・保護者に大学院進学および研究の意義・魅力をアピールする。
 - iv) 女性研究者の妊娠・出産・育児等に対する支援を推進するため、新たに不妊治療休暇を創設し周知する。



2023年保育・介護支援ガイドブック

保育・介護支援ガイドブックを2023年4月に改訂しました。これまでは各所属に紙媒体で配布しておりましたが、今年度より電子媒体で公開しております。このガイドブックには育児や介護に関する制度の説明や2022年度に改正された男性育休に関する情報、教職員男女比率などのデータを記載しています。

産休を取得する方へは人事課にて配布していますが、その他の方にも是非ご覧いただきたい内容です。

ダイバーシティ・キャリア支援センターHPに掲載しておりますのでご覧ください。

→ <http://www.marianna-u.ac.jp/career/support/nurture.html>



保育・介護お悩み相談会

相談日時：9月12日～11月10日 11:30～13:00
(お1人30分程度・日時はお相談に応じます)

場 所：菅生キャンパス内

申込方法：予約制(お1人30分程度)

下記HPより用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上ご提出下さい。(メール又は4階ポスト)
期間中随時受け付けますが希望日の1週間前までにはご提出ください。

オンライン相談も予定しておりますので、会場にお越しただけなくても相談可能です。保育や介護について、看護師、ソーシャルワーカー、人事課職員、他経験者が皆様のお話を伺います。様々な情報を得られる機会ですので、是非ご参加ください。

お申込み・お問合せ先

ダイバーシティ・キャリア支援センター

HP http://www.marianna-u.ac.jp/career/support/hoiku3_04.html

内線5814 career@marianna-u.ac.jp

●ダイバーシティ・キャリア支援センター●

電話044-977-8111(内線5814)、メール(ご相談・ご意見)：career@marianna-u.ac.jp